

私の医療に対する希望

(人生の最終段階や認知症などで、自らの意思を伝えられなくなった時のために)

- あなたが、希望する医療をご自身で記載してください。
- あなたご自身で判断できなくなったとき、ご家族・主治医の参考になると思われます。
- この希望は、いつでも修正・撤回できます。
- 法的な意味はありません。

希望の項目にチェック☑してください

1. 基本的な希望

① 痛みや苦痛について

- できるだけ軽くしてほしい (必要であれば鎮静剤を使用してほしい)
 自然のままにいたい

② 人生の最後を迎える場所 病院 自宅 施設 病状に応じて

③ その他の基本的な希望(ご自由にご記載ください)

(_____)

2. 人生の最終段階や認知症などで、自らの意思を伝えられなくなった時の希望

- ① 心臓マッサージなどの心肺蘇生 して欲しい して欲しくない
② 延命のための人工呼吸器 つけて欲しい つけて欲しくない
③ 抗生物質の強力な使用 使ってほしい 使ってほしくない
④ 胃(食道)瘻による栄養補給 して欲しい して欲しくない

「胃(食道)瘻による栄養補給」とは、流動食を腹部(頸部)から胃(食道)に直接通したチューブで送り込むことです

- ⑤ 経鼻胃管による栄養補給 して欲しい して欲しくない
「経鼻胃管」とは、流動食を鼻から食道を通して胃にいれたチューブで送り込むことです。
⑥ 点滴による栄養補給 して欲しい して欲しくない
「点滴による栄養補給」とは、太い血管(中心静脈)、末梢の細い血管に点滴をして栄養を送り込むことです。
⑦ 点滴による水分補給 して欲しい して欲しくない
⑧ その他の希望 (自由にご記載ください)

(_____)

3. ご自分で希望する医療が判断できなくなったとき、主治医が相談すべき人は、どなたですか (お書きいただかなくても結構です)

お名前(_____) ご関係(_____)

あなたのお名前 _____ 生年月日 _____ 年 _____ 月 _____ 日

ご住所 _____

記載年月日 _____ 年 _____ 月 _____ 日

私の希望

(事前指示書)

～望まない医療を受けないために～



県立安芸津病院

緩和ケアチーム

希望の各項目の説明

これまで、多くの高齢者の方々は、本人が自らの意思を伝えられない状態になる前に、最後が近づいてきた瞬間(とき)にどうしてほしいのか希望を残しておられませんでした。そのため、とりわけ人生の最終段階(がんに対する効果的治療が選択できなくなった場合、非がんの状態でも自分の意思で治療方針が決定できなくなった場合)の医療方針について、医療スタッフやご家族が、判断に困り苦悩する場合がございます。

ここでは、将来、ご本人が、人生の最終段階を迎えたときに、望まない医療を受けないために、どのような医療を希望されないのかを記載し、残しておくために作られました。『事前指示書』に記載していただき、病院や老人施設に入る際には、職員に提示してください。人生の最終段階になって、ご自身で治療方針を判断できなくなったとき、ご家族、親しい友人や担当医師に見せます。

1. 基本的な希望

①痛みや苦痛に対して

- 身体的な痛みに対しては、内服、貼り薬、座薬、注射などを使用して和らげます。
- 社会的、精神的、スピリチュアルな苦痛に対しては、専門職が対応するなど個々に対応します。

2. 人生の最終段階や認知症などで、自らの意思を伝えられなくなった時の希望

①心臓マッサージなどの心肺蘇生

- 心肺蘇生とは、死が迫ったときに行われる、心臓マッサージ、気管挿管、気管切開、人工呼吸器の装着、昇圧剤の投与などの医療行為をいいます。
- 心臓マッサージをすると、心臓が一時的に動き出すことがあります。
- 気管挿管の場合、必ずしもすぐに人工呼吸器を装着する訳ではなく、多くの場合、手動のバッグ(アンビューバッグ)を連結して医療スタッフが呼吸補助をします。この行為により、一時的に呼吸が戻る場合があります。

②延命のための人工呼吸器装着

- 病気の違いにより、装着後、死亡するまでの期間は異なります

③抗生物質の強力な使用

- 感染症の合併があり、通常の抗生剤治療で改善しない場合、さらに強力に抗生物質をしようするかどうかの希望です

④胃(食道)瘻^{ろう}による栄養補給

- 事前に内視鏡と若干の器具を用いて、局所麻酔下に開腹することなく、栄養補給のための胃(食道)瘻を作る手術(経内視鏡的胃(食道)瘻造設術)を受ける必要があります。経鼻胃管よりも一般的に管理しやすい方法です。

⑤経鼻胃管による栄養補給

- 胃(食道)瘻や経鼻胃管では、つねに栄養補給ができます。しかし、人生の最終段階の状態では供給された栄養を十分に体内に取り入れることができないため、徐々に低栄養になります。また、栄養剤が食道から口の中に逆流して、誤嚥性肺炎を合併することがあります。

⑥点滴による栄養補給

- 短い期間(1週間ぐらい)までは、末梢静脈からの点滴で、ある程度のカロリー輸液(PPN)を行うことができます。1週以上の期間の栄養補給をする場合には太い静脈(中心静脈)に点滴チューブを通して、より多くの栄養を持続的に入れる高カロリー輸液(TPN)という方法があります。胃(食道)瘻・経鼻胃管での栄養補給と同様、人生の最終段階の状態では、徐々に低栄養になります。また、点滴チューブを介した感染症を起こすことがあります。

⑦点滴による水分補給

- すぐに重度の脱水にならないようにできます。栄養はほとんどなく次第に低栄養が進行します。